

川のごみや海のごみをともに考える京都流域宣言

私達は、豊かな自然と歴史文化が息づく京都の地において、内陸部では初めてとなる「第10回海ごみサミット2012 亀岡保津川会議」を開催しました。

京都の河川は、琵琶湖から発する宇治川、鈴鹿山脈に源を発する木津川、そして丹波高地の分水嶺から南下する桂川の三川が合流して淀川となって大阪湾に流れ込む淀川水系と丹波高地から北上して、日本海へと注ぐ由良川水系等からなっています。

古来、これらの河川は、大阪湾・瀬戸内海や日本海と都を結ぶ川の道として、緑豊かな山間部や穀倉地帯を潤しながら、「自然」や「ひと」、「まち」のつながりを生み出してきました。

いま、河川が育む人々の営みに思いをいたし、街から川へ、そして海へと続く海ごみの発生過程を考えると、この「つながり」の再生、そして流域が一体感を持って河川環境の保全にあたる「流域管理」という考え方が極めて重要であることはいうまでもありません。

この「流域管理」の実現には、自治体の区域を越えて住民、企業、NPO、行政など様々な主体が当事者意識を共有することがその第一歩となります。そして、それぞれの地域の特徴や差異を認め合いながら、互いの地域を思いやる「共想」、さらには互いに協調し合う「共奏」へと、つながりと広がり意識した海ごみの発生抑制対策のネットワークを構築することが不可欠です。

これらの河川流域では、長年に亘る取組を土台として、パートナーシップやネットワークなど多様な社会的仕組みを活かし、緩やかで、幅広い取組が展開できる大きな可能性を秘めています。第10回海ごみサミット2012 亀岡保津川会議を一つの契機として、川や海のごみの発生抑制に向けた「流域管理」に向けた議論を積み重ね、今日ここに集まった皆様とともに、全国へと繋がる「流れ」を創造していくことに多くの方が賛同されることを期待し、「川のごみや海のごみをともに考える京都流域宣言」とします。

平成24年8月26日

第10回海ごみサミット2012 亀岡保津川会議